

【公表資料】**令和3年度 第1回首里城公園管理体制構築検討委員会
会議結果**

日時：令和3年7月26日（月）午前10時～12時

場所：首里城公園首里杜館情報展示室

出席者：委員長1名、委員6名、協力委員8名（うち1名代理出席）

	氏名	所属等
委員長	蓑茂 壽太郎	東京農業大学 名誉教授
委員	関澤 愛	東京理科大学 研究推進機構総合研究院 教授
委員	長谷見 雄二	早稲田大学 名誉教授
委員	後藤 治	工学院大学 理事長
委員	阿波連 光	弁護士
委員	野崎 聖子	弁護士
委員	宮國 薫子	琉球大学 国際地域創造学部 准教授
協力委員	望月 一彦	内閣府沖縄総合事務局 開発建設部 公園・まちづくり調整官
協力委員	森口 俊宏	内閣府沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所所長
協力委員	高嶺 賢巳	沖縄県土木建築部 参事
協力委員	諸見 友重	沖縄県教育庁文化財課長
協力委員	池原 秀典	沖縄県知事公室防災危機管理課長 (代理出席) 仲宗根 康之 消防班 班長
協力委員	大城 敦子	那覇市市民文化部文化財課長
協力委員	興那覇 政行	那覇市消防局予防課長
協力委員	平良 厚	那覇市消防局警備課長

【概要】

- 1. 委員長の選出**（「資料1」にて本委員会の概要を説明）
 - ・蓑茂壽太郎委員が委員長に選出された。
- 2. 首里城公園の概要【報告事項】**（「資料2」にて首里城公園の概要を報告）
 - ・各委員の専門分野の観点から様々な意見を交換した。
- 3. 令和3年度の検討事項**（「資料3」にて、令和3年度の検討事項を説明）
 - ・各委員の専門分野の観点から令和3年度の検討事項について議論した。

【次回】

令和3年度第2回委員会は、令和3年10月～11月頃に開催予定。

【意見要旨】

2. 首里城公園の概要【報告事項】

- ・（事務局）中城御殿や円覚寺の整備に係る事項は別途検討の場が設けられている。今年度の検討委員会は、他の検討内容と連携を図りつつ、県営公園全体の管理体制のあり方を検討する予定。
- ・中城御殿は正殿の復元と同じぐらい重要な事業。正殿から離れているので防災計画をたてるだけでも大変だと思う。それを含め全域の管理体制はさらに大変だと感じる。
- ・国営・県営・有料区域の3つの区域を沖縄美ら島財団が現在運営している。これらのエリアを一体的に管理することを前提とするのか、別々に管理するのかをまず考える必要がある。どの範囲までを一体的に管理するのが大きな問題と感じる。
- ・管理体制ということでいろいろなやり方があると思うが、公園なので一体的に管理することは大事だと思う。中城御殿跡地の周辺にはたくさんの住民が住んでいるので、周りの住民にも声をかけるなり、なにか異変があったら教えてもらえるような体制をつくるなり、ソフト面の体制づくりが必要と感じている。
- ・正殿と中城御殿・円覚寺は離れているので、それぞれ別の防災体制を敷いた方が安全である。夜間に人が常駐しない場合は、美ら島財団や奉神門にいる方々もいざというときは駆けつけることになるので、両方を組み合わせた管理体制を構築することが望ましい。一番心配なのは、円覚寺が国の史跡なので、近くに（防火用）の水源があることもあって、配管を設けることに対して規制が厳しいということ。この点は、円覚寺の方の委員会で検討して頂く必要がある。
- ・昨年検討してきて、指定管理者に何をまかせたらいいかをはっきりさせなければならなかったと思った。また、その内容は毎年見直しが必要なものとなる。

3. 令和3年度の検討事項

- ・資料3 p2②に「県営公園区域内の防災センターの整備方針を策定する」とあるが、センターの機能が中城御殿までを含むものであればハードルが高い。消防署と相談して、防災センターを機能させる範囲がどれくらいなのかを決める必要がある。消防法上の防災センターではなく、一般用語としての首里城公園全体での、防災のための中央センターという意味ならば、そう定義したほうがいい。
- ・（事務局）資料3 p4の「首里城公園全体の防災センター機能の役割分担の検討」で検討したいと考えている。
- ・防災計画は建物ごと区分しなければ一本化するの難しい。その上で、公園全体で情報共有することを整理することが必要となってくる。
- ・防災センター機能は一本化しないとしても、何らかの形で全体を連携させる必要がある。理想的な管理運営方法をまず考えて、それに合わせて制度を検討するという手順が望ましい。まずは望ましいあり方の検討が必要である。
- ・公園管理から防災を切り離すべきかどうか。切り分けたとしても、日中には利用者がいるので、管理上の協力はどうしても必要になる。

- ・指定管理業務の募集要項や業務計画書など、現状でどのような契約形態になっているかを調べる必要がある。次の委員会で現状の管理運営体制がどうなっているのか整理して報告して欲しい。
- ・（事務局）次回、整理した資料を委員会で共有する。
- ・公園利用の観点と、防災という観点の両方から具体的に望ましい形がどのようなものになるのかということ、全体に取りまとめるとどうなるのかを考えるものと理解している。
- ・公園のサイトごとに防災計画を設けたとしても、公園の管理を別の人に頼むのはナンセンスである。なぜかという、今回の首里城の火災は夜間だったわけだが、昼に起きた場合にはそこにいるボランティアスタッフにも防災の訓練を義務付けて、避難誘導はできる教育プログラムを組み込むなど、公園を管理している方がしっかりと防災に当たることが必要である。
- ・防災センター機能のあり方が大きな検討事項となっているが、そもそも防災にかかるセンター機能が、公園として必要なのかということも含めて一から検討すべきと考える。現地調査については、防災センターと管理運営センターとしての機能とを分けて明確に整理して考える必要がある。
- ・円覚寺や中城御殿を首里城と一体的に扱う場合には、全体の防災水準を同じレベルにすることを目標にする必要がある。そうしないと、何かあったときに、ある程度単純化しておかないと対応できず、首里城公園全体の管理として機能しない。東京駅の周辺でも共通の防災センターがあるが、やはり一体的な計画になっている。
- ・火事の場合は臨機応変の対応の想定が難しいし、火事を想定した訓練も難しい。地震とは違う。ある程度単純化しなければならない。臨機応変の範囲を狭めないと機能しない。問題を複雑にしてはいけない。
- ・公園マネジメントの現場に落とし込みながら検討してもらいたい。